

会 議 録

会議名	第24回まちづくり委員会		
開催日時	平成22年1月21日(木) 午後7時00分～9時00分		
場 所	消防署小会議室		
出席者 (敬称略)	(委員) 垣内勝司、根橋久子、三堀善業、牛丸喜美子、倉田英勇、 原美子、遠藤清文、降旗譽男、赤羽武栄、小澤一智、山寺恭子、 中谷一美 (町) 宮原(修)、宮原(利)、殿内	出席人数	
		委 員	12人
欠席者 (敬称略)	(委員) 小林代治、熊谷久司	町	3人
		計	15人
会議次第	1. 開 会 2. 委員長あいさつ 3. 協議事項 (1) シンポジウムの開催について 4. その他 5. 閉会		
資 料	(配布資料)		
会議結果	○シンポジウムの開催について検討しました。 ○次回委員会 平成22年2月10日(水) 午後7時00分～		
発言者	発言の内容		
副委員長	開会		
委員長	<p>シンポジウムについて、先生との打ち合わせも終わり、詰めの段階となりましたので、よろしく願います。本日の信毎に掲載されておりました、駒ヶ根市の駒ヶ根市民活動センターで様々なまちづくりの活動を市民に知ってもらうことを目的として「ぱとなだより」を年4回発行し、全戸配付を行っているようです。先日信毎の地宝人のコーナーに松本大学の白戸教授が「まちをつくるのは人の心である。地域の活性化の早道は、審議会で意見を述べるよりも本気で取り組む人を育てる事」といった文章が載っていました。まちづくりはリーダーや先駆者がいるかにかつきます。まちづくり委員会がリーダー的になれるかは分かりませんがまちづくりの為に少しでも寄与できればと思います。</p> <p>シンポジウムも非常にウェイトが高いと思います。先生も快諾いただきまして、一回の打ち合わせが行われましたが、PR方法やシンポジストに求める事について本日は審議をお願いします。</p>		
委員長	シンポジウムの開催ということで、お手元に辰野町シンポジウムの進め方といった資料が配付されておりますが、事務局よりご説明をお願いします。		
事務局	資料確認		

事務局	<p>それでは、経過報告をいたします。昨年第23回のまちづくり委員会の中で日程等決定しました。シンポジストについても、数団体挙げる中で昨年の12月25日に講師と打ち合わせを行いました。前回の会議の内容に基づき打ち合わせをする中で、委員長にも「きっかけづくり」といった位置づけで講演等をお願いしたいと伝えた中で、先生から「まちづくりはちいさい事の集まりで、小さな事から始めなければ、住民が参加できない」といった部分をお話いただけるようです。参加団体についても打ち合わせをする中で、沢底・商工会女性部・ひとまちこんの3団体をお願いする事となりました。</p> <p>打ち合わせ終了後、事務局にて連絡を数回取り合った中で、個人で活動されている方がいればでていただきたいと講師より要望がありました。その中で、講師より趣味から始めた事と行政的な部分の観点から副町長への参加依頼がありましたが、今回は別の方をお願いすることとなりました。個人の部分について、委員長より数人の委員にあたっていただいた中で、宮木の垣内さんをお願いしたいと考えています。具体的なお願いは、個人以外の3団体については了解いただいております。事務局からは以上です。</p>
委員長	<p>場所は椅子で無く平らなところで実施するという事で町民会館大会議室とします。シンポジストについて、当初は団体だけとの話でしたが、個人で地域づくりを行っている方から地域づくりが広がる可能性が強いと言う事、一つの団体で頑張る事も大切ですが、もう少し広がりを見込めて皆が納得できるような人を選ぶと言うことで、個人で垣内さんを候補としました。商工会女性部も障がい者の支援を含めた内容についてみんなを仲間に取り入れて実施している部分が素晴らしいという事をお願いしました。ひとまちこんは幅広い分野でそれぞれ活発的に組織的に実施していて、沢底については地域を元気にしようという部分をお願いしました。PRについては、回覧でまわすとして、月曜日までに作成しなければ間に合わない中で、日程的には厳しいですが、作成していきたいと思えます。資料にあるようにシンポジウムにあたって講師より質問をいただいたので、皆さんの方から何かありますか。</p>
A委員	<p>後1ヶ月で人を集める中で、新聞等メディアを活用する中で行えればと思えます。</p>
委員長	<p>皆さんの所属されている団体等へチラシ等配布する中で、できるだけ幅広く参加いただければと思えます。</p>
A委員	<p>ひとまちこんですが、今年は特に組織を変えて新たに取り組んでいて、ひとまちこんに情報を流して、ボランティアを通じてシンポジウムをPRすれば良いと思えます。福寿草を配る中で別にして流すこともできると思えます。</p>
事務局	<p>ひとまちこんから話があり、確定ではないですが、ひとまちこんの研修としても位置づけたいと考えているようです。チラシは、回覧板で流したいと思っています。HP等も使えればと思っています。</p>
委員長	<p>職員のスキルアップの一環といった話もありますし、一般の方もある程度来ると思えます。また何かご意見等あれば発言をお願いします。講師からの質問事項について、何かご意見等ございますか。</p>

委員長	基本的に従来は行政主体だったのが、自身身近なところからまちづくりに参加できるという部分で、我々が作成した手引書作りしましたが、一人でも多く参加していただく事がまちづくりだろうと思います。この質問の中で何かございますか。
B委員	これは、講師からまちづくり委員への質問ということですか。
委員長	そうです。
事務局	まちづくり委員会が主催する中で、こういった気持ちをもっていただきたいという意味での質問です。シンポジストの選定は講師とも話しをしたので後先になる部分もありますが、協議いただければと思います。
委員長	シンポジストの選定理由については、推薦いただいた中で、それよりもどうだろうかという選定で、優劣をつけたわけではありませんが、先生が一番考えておられたのは、一つの限定されたものでなく、それが広がっていく可能性、入りやすいその部分を知っていただく事が必要という考えでこういった結果となりました。商工会の女性部の皆さんが活発な活動をしていた事も知らず、そこで始めて知りました。それぞれの思い入れはいかがですかね。
委員長	シンポジウムを通じてどのようなまちづくりをしていきたいか。といった部分はいかがですか。
A委員	協働のまちづくりとはといった部分に尽きると思います。辰野町に住んで良かったと思えるように、協働のまちづくりが進められればと思います。
委員長	誰もが安心して住み続ける事ができる魅力の溢れる町にしたい。これは指針にも載っていますがこういった部分ですね。
A委員	それには、協働とはどういったものかももう一度皆で意思統一しようという事だと思えます。
B委員	先生がおっしゃる「まちづくりを大きなものとして捉えるのではなく、小さな活動の集合であるとの気づきがまちづくりのきっかけになる」これが非常に大事だと思います。それぞれの場所で良くしよう、地域を盛り上げようという思いを実現する為にする活動が町全体で集まると大きな活動になると思います。
委員長	みんながやる気を出した参加すれば、それがまちづくりだと思います。身近にあるといった部分ですね。
A委員	委員長の挨拶にもありましたが、駒ヶ根の活動も小さい事でも関心を持ってみようという事だと思えます。小さい関わりを作ってそれを、大きなものへつなげていこうという事だと思えます。
B委員	こんな町にしたいという思いが大切だと思います。
委員長	誰もが住んでみたい町を目指す。指針の題目にもありますが、言葉としてはこれに繋がっていくと思います。実際参加するには、小さな身近な活動とすれば参加しやすいですし、それがまちづくりに繋がると思えます。
C委員	小さいものから大きいもの繋がる、それがまちづくりだとシンポジウムを通じて知識と経験のある講師に代弁していただき知らせて欲しいと思います。

D委員	参加者に求める事は、まちづくりは住民参加で行う事だと思います。シンポジストに求める事は、この方達が行動する事の発端を話していただければ参考になると思います。講師に求める事は、おしつけにならないように、喚起の一助なるようにお伝えいただければと思います。
E委員	手引書に記載された活動について、小さな活動の集合がまちづくりだと思いますので、参加者には自分が行っている事が協働のまちづくりだと気づいて帰っていただければと思います。シンポジストはかなりの活動をされていますが、個人としてはそんなに大きな活動をしている訳ではないがそれが協働のまちづくりへ繋がっている事に気づいていただければと思います。宮木の垣内さんはどのような活動をなさっていますか。
B委員	国際交流協会の事務局を長年務めていましたし、ボランティア運営委員会でもまとめ役だったり、ひとまちこんなど他の団体と活動したり、幅広く活動されている方です。
A委員	ひとまちこんにも入っていますし、沢底の有賀さんも入っています。
委員長	厳格な団体の分けはありませんが、現実に活動している内容が、伝わればと思います。
A委員	ひとまちこんはグループの代表が集まり、困ったときにネットワークを使い助け合いを行っています。今度福寿草祭りのご案内役をひとまちこんで受けましたが、下積みなボランティア活動をしているので、面白い発表になると思います。
F委員	今話の方達は、どちらかというとシンポジウムが必要でないと思いますが、そうでない方達をどのようにひきつけるかがシンポジウムの目的でありまちづくりに繋がると思います。関心の無かった方にいかに参加いただくかが目的だと思います。講師には、そのすべを教えていただければと思います。
委員長	誰でもできる事がまちづくりで、おしつけでないといった部分を伝えていただければと思います。選定理由は、講師との打ち合わせで決まった部分ですので、その意を酌んで話しをしていただければと思います。行政に対する考え方も出てくればと思います。シンポジストに求める事については、いかがですか。前回失敗事例についての話がありましたが、苦勞話を出していただければと思います。
A委員	沢底の有賀さんは色々な活動をしていますよね。
事務局	地域で元気なのが、沢底や渡戸で、沢底が元気な理由は色々な団体があって色々な活動があり、有賀さんがキーとなり地域を取り込んだ活動の中で良いという話でした。
G委員	このシンポジウムが今回で終わりなのか、次に繋がるのかによって変わってきますが、シンポジウムを通じてどのようなまちづくりをしたいかという部分で、今まで行政に縛られたまちづくりが行われていた事もあり、計画などの作成もコンサルタント任せで絵に描いた餅になっていた。自分達の地域が制約されずに進めていくことがひとつ、その中で行政と町民が掛かっていくことの2通りがあると思います。これから進むまちづくりは基本的に第5次総合計画を住民がどのような町にするかという部分を作成し、それに向かって個々に協力していくか・・・辰野町として総合計画の実現に向かって住民が小さいことから関わっていく事がこれからの協働のまちづくりになると思います。

委員長	大きな目標ですがそれを理解しながら、身近なところから始めようといった内容のシンポジウムになればと思います。
H委員	そのとおりだと思います。今回のシンポジウムはそこにもっていく為の一つの段階だと思います。講師に求めることは、我々が気づかない部分からの専門的な指摘事項で、次の展開にもっていくためのアドバイスが欲しいと思います。輪を広げていくための助言や様々な経験から、やってはいけない事や何を行うにしても区切りがあるので、継続するにしても展開するにしてもそこでどのような力が必要なのか含めた指導をいただければと思います。シンポジストに求める事の中で、発端を聞きたいと思います。
I委員	手引書には住んでみたい町を目指すと記載してあるが、住んでみたい町は元気のある町で、元気のある町はひとが集まると思います。そのためには、地域を元気にするという事で協働を行うことだと思います。参加者の皆さんが少しでも参加する心を持ち、新しい活動につながればと思います。シンポジストの方たちは、地域が元気になる事を考えているので、その辺の話をしていただければと思います。
A委員	当初の目的は、これから10年の目標が発表されるので、それに向かって自分たちが実行できる事、やっている事参加者が理解できればと思います。講師に求めることは、短時間で色々言ってもすべてを理解する事は難しいので、活気ある皆が元気を出せるものを一つでも気づいていただければと思います。
G委員	やってはいけない事についても話をいただければと思います。
J委員	誰もが住んでみたい町を目指す事が大きな目標です。参加する方には、目覚るきっかけになればと思います。シンポジストには、出発の原点がどこにあり、事業の成功には周りの人をどのように巻き込んで言ったか、その部分の手法をお話いただければと思います。我々が気づかなかつた、辰野町における欠点や長所をお話いただき、長所を活かしていけない部分があればそこをお話いただければと思います。
委員長	来ていただいた方に、一つでも二つでも理解いただければと思います。職員向けにも先生に一言具体例を挙げていただければと思います。職員にも協働のまちづくりへの理解が深まればと思います。
G委員	町が向かっていくことへの参加が大切な事だと思います。
事務局	シンポジストの選定理由はいかがですか。
B委員	元気な地区で考えると大体の方が澤底と言うので、注目度を集めさせているので、その元気な地区を作り出したきっかけであるキーマンといった部分だと思います。ひとまちこんは、多くの団体が入っておりネットワークが珍しいと思います。
委員長	支援センターも月曜日に役場にきてうどんを売ったりしていますが中々それだけではという部分も有り、商工会の女性部の皆さんが自分たちの商売の知恵を活かせないかということが発端で、アイデアや知恵をお聞かせいただけたと思います。沢底の活動は様々な世代の方達が係わってそれを上手くまとめながら地域お興しをしています。ひとまちこんは、様々な団体がネットワーク化されていて皆が纏まっているという事と、地域を前向きにという事が前面に出ている団体だと思います。

委員長	垣内さんについては、現在でも色々な団体に所属されていて、個人として参加する場合で面白い話や苦勞話をお聞かせいただければと思います。選定理由は挙げましたので、纏めていただければと思います。
委員長	次にチラシの関係ですが、事務局にお願いすればそれで良いのですが、委員の中でパソコンに長けているJ委員にお願いしたいと思います。キャッチフレーズ等あれば発言をお願いします。
事務局	キャッチフレーズは選定理由にも繋がるとしますのでよろしくお願いします。
B委員	シンポジストのキャッチフレーズという意味ですね。
委員長	月曜日の9時から作業を行いますので、何か案等出していただきますよう、よろしくお願いします。
事務局	一点確認ですが、広報たつものには協働のまちづくりシンポジウムと入れましたが、協働という言葉は入れますか。
一同	協働を入れたほうが良い。
委員長	協働のまちづくりシンポジウムということでよろしくお願いします。
事務局	確認ですが、2月の広報には大まかな内容は載せて有りますが、各団体への配付の他に回覧を使いますか。
委員長	広報の中に入ると見ない部分があります。先日の住民会議の記事も見えにくい部分がありました。回覧をお願いします。
事務局	各種団体にはどこまで配付しますか。
A委員	ボランティア団体への送付でよいと思います。
委員長	新聞は広報以上の宣伝力があるので発表していただければと思います。
A委員	広告でなく記事でお願いいただければと思います。
事務局	行政からのお願いより、委員長からお願いいただければ取り上げていただけると思います。
A委員	記事に書いて出せば取り上げていただけると思います。
事務局	行政からのお願いよりは、委員長からお願いいただければと思います。
F委員	委員長が事前に新聞社へお願いしておけば良いと思います。
事務局	手引書の時にも、記事にいただいた経過がありますので、町からお願いしても良いのですが、委員会からのお願いとでは先方の捉え方が違う事がありますので、よろしくお願いします。
委員長	次回委員会は2月10日(水)午後7:00からお願いします。
事務局	次回の委員会に当日の役割などを決めていただくようお願いいたします。
委員長	任期が迫っていますが、事務局から何か終わりについて答申を受け答申に答えるようなことが今まではありましたが、何かありますか。手引書を作成し、シンポジウムを開催する予定は有りませんでした。できたのでその辺はいかがですか。

事務局	1 回目の時は、実行した内容を纏めていただく中で、町長へ答申していき、第2回目への引継ぎがありました。3月末で任期となりますが、まちづくり委員会として今後進めていく事項があれば、今後に繋がっていくと思います。先程G委員より発言のあった、第5次総合計画について、23年から32年の10ヵ年となりますので、22年度中は、策定作業にかかっている事となります。住民の意見を聴く中でまちづくり委員会は後期基本計画の際には携わっていただいているようです。第4次総合計画については、各種団体から出ていただき実施しており、今回は一般公募の方にも出ていただく事になっております。今回のまちづくり委員会の中では、評価の部分をシンポジウムという形で行いますが、第5次に策定にあたりまちづくり委員会が関わっていく事が一つだと思えます。まちづくり委員会として今後進める中で、他に何かあれば3回に繋がっていくと思います。
委員長	まちづくり委員会として何もなければ良いという事ですか。
事務局	第5次の住民の意見の部分では、住民アンケート・住民会議を既に実施しました。審議会やHPにて意見を聴いていく事となります。
委員長	我々が決定する事ではないですね。行政からの依頼で実行していく事だと思います。先日の住民会議は、住民が行って意見を出すコンサルの下調べのような形でした。町の方針で出てくれれば出てくれて良いといった方針だと、難しいと思います。
事務局	まちづくり委員会として、次の要望等があればそのテーマに副って次につながりますが、なければ第4次では住民の役割的な記載が無かったので、第5次にその部分にすりこんでいければと思います。今まで指針→手引書を作成し、今後シンポジウムを開催しきっかけづくりとして広めていく中で何かあれば委員会として実行していければと思います。
G委員	行政の係わりがある協働まちづくりと、住民が積極的に関わっていく部分がありますが、まちづくり推進委員会的なものが必要かどうかという事だと思います。町ばかり推進といっても、絵に描いたもちになると思います。このような行政との調整役的な組織があれば本当の住民主権のまちづくりに寄与すると思います。
委員長	出てくれれば出てくれのような考え方だと難しい部分がありますので、これだけのまちづくり委員会の活動があったので、来年度も是非という事を考え意見書のようなものを作らなければと思います。町の考え方も定かではありませんが、その辺をお含みいただいて、この委員会の最後の引けどころを考えていただければと思います。
事務局	事前に講師・シンポジスト・正副委員長・事務局にて打ち合わせをするので、皆さんにご報告しておきます。
副委員長	閉会